

来年度の学校給食費について

10月20日の川口市教育委員会で、2023年度の学校給食費について審議会からの答申を受け確認されました。学校給食運営審議会から答申された内容を下記に報告します。

学校給食費の改定について(答申)

当審議会は、教育委員会から諮問された学校給食費の改定について、承認依頼の内容に基づき審議いたしました。

昨今の物価高騰の中、令和4年度下半期の不足額については、小学校では1食あたり32円、中学校では1食あたり41円と見込み、この不足分については新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、保護者負担の軽減に取り組む予定であることが、令和4年度第1回川口市学校給食運営審議会で報告されたところであります。この審議会においても、物価高騰は今後も続くことが予想されるため、学校給食費の単価を見直す時期に来ているのではないか、という意見が出されました。

川口市の学校給食費は、平成26年の消費税改定に伴いその増額分を改定しましたが、物価の変動に伴う改定は平成22年以来実施しておりません。この間に牛乳は20%の上昇、主食の主なもの8%から31%の上昇があり、特に今年は多くの食品において値上げが行われているところであります。令和5年度の学校給食費については、これらの物価上昇を総合的に検討した結果、小学校では273円、中学校では324円の価格が妥当であるとの結論に至りました。

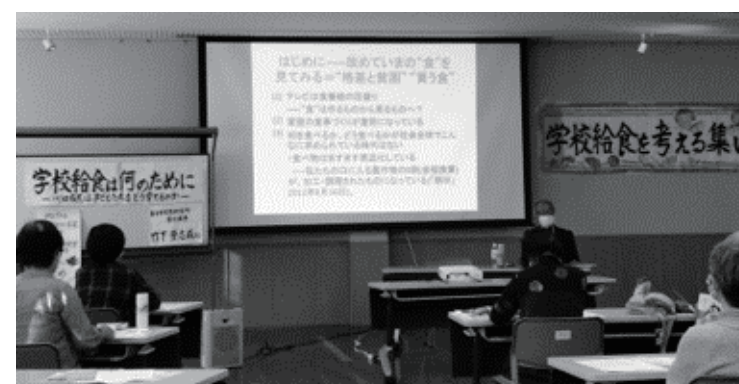
年額にすると小学校で約6300円、中学校で約8100円の値上げとなります。やむを得ないという意見がある一方、物価高騰は子育て世帯の生活全般への影響が大きく、保護者負担の増加を懸念する意見もあり、令和4年度の対応と同様に、令和5年度についても保護者負担軽減策を講じて欲しいという意見がありました。

今後も引き続き、児童生徒に安全安心で豊かな学校給食を提供し続けていただくよう、併せて要望いたします。

子どもたちの心と体を育てる 「学校給食を考える集い」が開かれました

物価高で食費が上がる中で、学校給食費の負担軽減を実施する自治体が増えています。11月3日に学校給食を考える会と民主教育を進める市民会議が主催する、「学校給食を考える集い」がふれあいプラザさくらで開かれました。

「学校給食は何のために? 川口市民は子どもたちをどのように育てるのか」と題し竹下登志成氏(自治体問題研究所常任理事・研究員)が講演しました。



新自由主義と新型コロナウイルスがもたらした食の貧困によって、母子家庭の18.2%が食事回数を減らし、14.8%が食事の量を減らしているなど調査結果を示し、厚生労働省の調査結果でも日本の子どもは依然として子ども7人に1人が貧困状態にあることや、日本の子どもの「幸福度」が最低水準にある現状を踏まえ、①なぜこの時期学校給食に注目が集まっているのか ②大規模センター、民間委託・PFIは「新自由主義」 ③学校給食の今日的価値・学校給食法の実現に向けて ④広がる学校給食の可能性 ⑤中学校給食を自校方式で について話されました。

前群馬県高崎市長は、「私の自慢は学校給食」「効率至上主義、偏差値中心の教育の結果、学級崩壊、少年犯罪の激増となったのではないかと。自校方式は、金がかかるかもしれないが、豊かな食事によって、豊かな心、人格が形成されるのではないかと。21世紀を担う子ども達の人格形成のためならば、教育費の増加は未来に対する効率的な投資ともいえると思う。他の市町村の教育予算は、7～8%のところが多いけれど、高崎市は10%を超えています。でも、無駄とかもったいないとか考えていません」(高崎市の給食 平成22年度版)の紹介など学校給食の各自治体の経験もたくさん紹介されました。

集いに参加した保護者や教職員・調理員などから、川口市でも安全・安心・おいしい学校給食が実施されることが、川口市の子ども達には大切との意見が寄せられました。

自治体が運営する公立病院の役割とは 第16回地域医療政策セミナーに参加して

11月1日(火)13:00～、全国自治体病院経営都市議会協議会主催の「第16回地域医療政策セミナー」が、都市センターホテルコスモスホール(千代田区平河町)で開催され、日本共産党 川口市議団も参加しました。

当日は全国各自治体の議会事務局、議員、自治体病院関係者など250名以上が参加し16:40まで講演、質疑応答などが行われました。

講演は「公立病院の新型コロナウイルス感染症対応実績と、今後の新興感染症感染拡大に備えた対応」として、全国自治体病院協議会の竹中賢治副会長が新型コロナウイルス感染症拡大の中、患者への対応はクリニックが主体の一般開業医に頼ることは不可能であり、自治体が運営する公立病院に集中すること。また、「全国自治体病院ネットワーク」により約240の公立病院で今後も、災害発生時や感染症拡大などの緊急時には医師や看護師の派遣などで対処していくとのことでした。



コロナ感染症患者の受け入れ入院では、感染対策としてのゾーニング確保や医師スタッフの集約化の必要性が生じ、一部の病床や外来の閉鎖等があり、一般診療患者に対する診療抑制が行われた状況との事で、入院患者数、外来患者数、急患患者・救急車等受入件数等とともに減少し、手術なども必然的に減少したとの事です。また、医師や看護師にも精神的不調を起因とした休職者が増えていることで、メンタルヘルスケアやモチベーション維持のための取り組みが行われたとの事です。

公立病院の経営は財政的にも困難を伴うものだが、一般の診療機関、開業医とは異なる立場が求められるものであり、住民のいのちをまもる行政としての自覚と責任に対して、政治が感染症対策を怠ることなく「病床の確保や医師・看護師の増員」などを推進して、皆が安心して暮らしていける社会をつくることが求められていることを改めて感じました。

第24回障害者週間記念事業 「ハートフェスタ」が開催されます

●日時／11月19日(土)12時～15時

●会場／川口駅東口公共広場
「キューポ・ラ広場」

授産製品の展示や販売、パネル展示、バザー、相談コーナー、豚汁の無料配布ぜひ、お買い物袋をご持参ください。

※手話通訳あり

●お問い合わせは

川口市障害福祉課

電話 048-259-7926

FAX 048-259-7943

障害者基本法に定められた「障害者週間」(12月3日～9日)を記念して、障害に対する理解と認識を高める事業です。

障害者週間とは障害者の福祉への関心と理解を深めるとともに、障害者が積極的に社会に参画する意欲をたかめることを目的に制定されたものです。

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染対策のため「新しい生活様式」を遵守したうえで開催されます。障害者関係団体による物品販売・作品展示など参加して楽しいイベントです。

イベント参加団体

市内障害者施設作品展・展示販売・バザーほか

- 川口市社会福祉事業団 - 気楽福祉支援しごと生活介護しごと事業所 - 精神保健福祉ボランティアグループ はらっぱ - ラッコの会 パンラッコ - ごきげんらいぶ - あがぽり福祉会 - あきひあ〜と・ゆりヶ丘学園 - ほっとすてーしょん - 川口市身体障害者福祉会 - 川口市精神障害者家族会 わがば会	- 川口市障人団体連絡協議会 - ワーカースコープ たいむ - めだかすとりいむ すいーつぱたけ - カフェ＆ふれあいショップ ふらっと - がわくち手袋の会 - あみくるDays あみくる - ひらく会 みんな - ヒールアップハウス - 晴れ晴れ・のびのび・にちにち - みぬま福祉会 川口太陽の家 - わかゆり学園
--	--

来場時のお願い

1. マスクについては、場面に応じた適切な着用をお願いします。
2. 手の消毒をしてください。
3. 他の人との距離を保ってください。
4. 体調不良の時は来場を控えてください。